

第61回

天然有機化合物討論会市民講座

天然物討論会の 科学者たち

物取り・合成・事取りの60年

2019
9.14
[Sat]

広島国際会議場

広島市中区中島町1-5

北里大生命研
大村 智



北里大院感染制御科学府

砂塚敏明

微生物科学が人類を救い
ノーベル賞受賞



名大院情報
吉田久美



花色の科学
なぜ多彩?なぜ変わる?

広島大学院
理学研究科

小林 亮



粘菌からロボットへ
単細胞が教えてくれること

東京都立
小石川中等教育学校

増井真那



17歳(高校生)の
粘菌研究者

天然物討論会の科学者たち

物取り・合成・事取りの60年

日時 2019年9月14日（土）9:30-12:30（9:00 開場）

場所 広島国際会議場（広島市中区中島町1-5）

ファシリテーター：寺本 紫織

広告クリエイティブディレクターから縁あって、広島大学大学院理学研究科サイエンスカフェにてファシリテーターを務める。その香りの虜になり、はまったお茶、趣味が高じて喫茶室「お茶の時間 雲間」をひらき、ときどきサイエンスカフェを開催している。

9:35-9:55 吉田 久美（名古屋大学院人間情報学研究科）

花の色はなぜ多彩なのか、花色素は植物にとってどんな役割を持つのか。これらは未だ謎のままです。このテーマを通して、有機化学を基盤とした、天然物化学、超分子化学、合成化学、分析化学、植物生理学、分子生物学などを融合させた新たな生命科学を拓きたいと考えています。

9:55-10:10 緒方 是嗣（株）島津製作所

日本の天然物化学は、次の講演者である大村先生を初め何人ものノーベル賞学者を出しています。日本の天然物の発展は、ただ個々の研究者の才能だけではなく、機械の発展にも支えられていました。そのような観点から2002年にノーベル賞を受賞した島津製作所に、MALDIから発展したイメージング質量顕微鏡の話をお願いしました。

10:10-11:00 大村 智・砂塚 敏明（北里大生命科学研究所）

砂塚研究室では、大村創薬グループ（大村 智：2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した）が発見した魅力溢れる天然有機化合物をもとに、新規の医薬品を創製する目的で効率的な合成法の確立や化学変換を用いた様々な類縁体合成の研究を行っています。

11:00-11:30 小林 亮（広島大学院統合生命科学研究所）

小林先生は、生命現象の奥に潜む事（複雑な系のダイナミクス）を、数理的な手法を通して理解することを目標として研究されています。このような考え方の基礎研究を進め、2度のイグ・ノーベル賞（認知科学賞：2008年、交通計画賞：2010年）を受賞されました。

11:30-12:30 増井 真那（東京都立小石川中等教育学校）

2001年東京生まれ。都立小石川中等教育学校6年（高3）。5歳より変形菌の飼育、7歳より変形菌の研究を始め、論文執筆、学会発表、講演、ワークショップの企画・講師などを行う。小3からの研究テーマは「変形体の自他認識力」。高1で単著『世界は変形菌でいっぱいだ』（朝日出版社）を上梓。高2で国際学術誌『Journal of Physics D: Applied Physics』に論文掲載。

申込締切：2019年8月17日（土）

問い合わせ・申込方法：参加ご希望の方は、(1)氏名、(2)所属、(3)メールアドレスをご記入のうえ、左下記メールアドレスにお申し込みください。

メールアドレス：tennen61@hiroshima-u.ac.jp

主催：「第61回天然有機化合物討論会」委員長 泉 俊輔